

第2回経営発達支援計画事業評価委員会 会議録

- 1 招集通知 平成30年 2月 1日 (木)
- 2 開催日時 平成30年 2月23日 (金) 13:30~14:45
- 3 開催場所 瀬戸内市商工会 本部2階会議室
- 4 出席者 8名 委員長 福池 幹夫 (商工会副会長)
- 副委員長 福崎 勇 (商工会副会長)
- 内部委員 藤井 雅司 (経営支援事業委員会副委員長)
- 山口 卓男 (地域振興事業委員会委員長)
- 神坂 俊規 (地域振興事業委員会副委員長)
- 内藤 国光 (青年部長)
- 岡部 峯子 (女性部長)
- 外部委員 松本 直也 (中小企業診断士)
- 欠 席 石田 茂樹 (経営支援事業委員会委員長)
- 小林 裕治 (瀬戸内市産業振興課課長)
- 5 議長 福池 幹夫
- 6 議事の運営要領及び議案別審議の結果

(開 会)

午後1時30分、事務局(石井事務局長が第2回事業評価委員会を開催する旨を宣し、続いて、福池委員長が開会あいさつを行った。

<あいさつ趣旨>

- ・本事業委員会の役割は大きく分けて次の3点である。
 - ①事業の進捗状況を管理し、滞りなく事業を遂行すること
 - ②事業の成果をしっかりと検証し、正確に評価すること
 - ③効果的に経営発達支援計画をすすめるための課題、改善策を抽出すること
- ・この第2回となる事業評価委員会の協議を取りまとめ、3月14日に開催される理事会へ提言すること。
- ・本日の協議を翌年度以降の経営発達支援計画に基づく事業の効果的な実行につなげていきたい。

(協議事項)

①平成29年度事業の実施状況報告について

I 平成29年度経営発達支援計画に基づく実施事業・進捗状況

II 伴走型小規模事業者支援推進事業実施報告について
「経営支援事業」

福池議長は事務局に説明を求め、事務局（松本支援課長）は「I 平成29年度経営発達支援計画に基づく実施事業・進捗状況」及び「II 伴走型小規模事業者支援推進事業実施報告について【経営支援事業】」について資料1、資料2、資料3に基づき説明した。

福池議長はこのことについて、意見を求めたところ次のような発言があった。

松本委員：資料1の事業計画の実施支援、フォローアップの実績値が伴走支援の件数に比べ少ない。実績の計上漏れが考えられるがどうなのか？もしそうであれば、しっかりと実績値を計上しなければ正しい評価ができない。

松本課長：支援した指導員の申告をもとに計上していた数値である。ご指摘の通り計上漏れがあると考えられる。実績計上に漏れが出ないように徹底していきたいと思う。

福崎副委員長：首都圏へ向けての販路開拓の取り組みは、新春互礼会でも報告していたが、瀬戸内市の特産品情報発信にもつながり、臨席いただいた瀬戸内市長も非常に高く評価されていた。

多い少ないはよくわからないが、直接受注に結び付き売上が上がっていくことは非常に有効だ。

また、伴走型の経営支援もこれからの商工会の支援としてとても重要なものであり、青年部などの若手や後継者などの支援も手厚くしていくべきだ。

商工会任せはよくなく、企業は自立しなければいけないが、問題を掘り下げて課題を抽出し、取り組む支援が求められている。

松本課長：売上の成果ですが、首都圏への販路開拓に向けた展示会の出展支援において25件の売上実績があったことは大きいと捉える。新たな販路を開拓することは非常に困難で、受注金額自体は大きくはないが今後継続した取引も見込まれる。商品のブラッシュアップやFCPシー

トのつくり込み、ターゲットの明確化などの事前指導が功を奏したと
考えている。

福崎副委員長：テレビ等のマスメディアで取り上げられる効果は絶大だ。

松本課長：マスコミ等に取り上げられ売上が上がると事業者のモチベーション
アップにつながる。取り上げられた事業所においては新商品開発など
も活発化している。

福崎副委員長：商品開発による販路開拓は非常にコストがかかる。こうした取
り組みに持続化補助金等を活用できることは意義が大きく、支援して
いくことが重要だ。

神坂委員：百貨店への出展というのは継続的な取引か？

松本課長：おかやまフェアという3日間のイベントである。後に継続取引のき
っかけになりうる。

福崎副委員長：百貨店への出展は顧客の開拓になる他、販売手法をはじめ様々
な面で勉強になるとともに大きな刺激になる。

Ⅱ 「伴走型小規模事業者支援推進事業実施報告」【地域振興事業】

福池議長は事務局に説明を求め、事務局（石原2課長）は「Ⅱ 伴
走型小規模事業者支援推進事業実施報告【地域振興事業】」について
資料4に基づき説明した。

福池議長はこのことについて、意見を求めたところ次のような発言
があった。

山口委員：各地区の観光スポットを結びつけるのは非常に難しい。また、観光
者が求めるジャンルも多様化している。

福池議長：観光は商工会より市と観光協会が主導するのが本来あるべき姿では
ないか？

石原課長：商工会も商工業者の視点から提言し3者連携を促進する必要性は大

いにある。ただ、現状で方向性の違いがあり、まとめなければならない。

福崎副委員長：徐々に調整していく必要がある。

福池議長：瀬戸内市にとって観光がどの程度重要なのか考えることも必要だ。
歴史的な観光スポットも多々あるが、関連性も強くない。

福崎副委員長：しかしながら、観光客による経済効果は大きく粘り強く取り組む必要がある。

②平成30年度事業の取組みについて

Ⅲ 平成30年度実施事業計画の骨子(案)

議長は事務局に説明を求め、事務局（松本課長、石原支援2課長）は「Ⅲ 平成30年度実施事業計画の骨子(案)」について、資料5に基づき説明した。

福池議長はこのことについて、意見を求めたところ、次のような発言があった。

松本委員：経営革新計画の承認件数は県下商工会においても2、3件というの
はあまりにも少ない。多ければいいというものではないが5件程度の実績は出して
いくよう努力すべき。何か増やす方策はないのか？

松本課長：持続化補助金で支援した延長線上の支援、事業承継に関する支援、
採択にあたり加点にもなることもあり、ものづくり補助金活用を検討している
事業者への支援において推進していきたい。また、翌年度は経営革新塾、個別
相談会を開催し、事業所の掘り起しをすすめたい。

山口委員：経営革新はどのような業種で取り組めるのか？製造業のみとか制約
があるのか？

松本課長：新商品の開発もあるが新サービスや新たな提供方法など、多様な取
組みが対象となり、ほとんどの業種が対象となる。

藤井委員：さまざまな制度が末端に普及されるのに時間がかかり、遅れた対応

となっているのではないか。

福池議長：市の産業振興課長は本日欠席であるが、情報交換を密にして、連携を図りながら取り組み、素早い対応が必要だ。

松本課長：瀬戸内市の産業振興課長は積極的に情報交換にも対応いただいております、施策の方向性についてもうかがうようにしてきている。今後はもっと早い対応と情報提供に心掛けたい。

内藤委員：来年度の取り組みにおいて事業承継に対する支援はどのようなのか？

松本課長：重要なテーマになっており、今後国の支援策も具体的に出てくる見込みだ。商工会も重要な役割が求められることは間違いないが、具体策はこれからである。3月には岡山県商工会連合会主催で事業承継に関する取り組みの会議が開催される予定で、かかわり方がわかり次第お伝えしていきたい。

③その他

IV その他

議長は「その他」何かないか諮ったところ何もなかった。

本日の協議の結果を理事会へ提案していくと述べ、議長の座を降壇した。

(閉会) 福崎副委員長は、閉会のあいさつを述べ終了した。時に、午後2時45分であった。